

平成 25 年度補正予算「廃炉・汚染水対策事業費補助金」 に係る第六次・第七次公募の採択結果

平成 26 年 7 月 31 日
資源エネルギー庁

平成 25 年度補正予算「廃炉・汚染水対策事業費補助金」に係る補助事業として、第六次・第七次公募を実施し、厳正な審査の結果、6 月 30 日に次のとおり採択されました。

具体的な事業の概要と採択先は次のとおりです。

(1) 第六次公募 (3 件) 【公募期間：平成 26 年 5 月 23 日～6 月 23 日】

○燃料デブリ・炉内構造物の取出技術の開発 (採択先：技術研究組合国際廃炉研究開発機構)

燃料デブリや炉内構造物を取り出すための工法及び装置の技術開発については、平成 31 年度までに装置開発、モックアップ試験、実機適用性評価等を実施予定。

その中で、今年度事業では、プラント情報の整理や条件の設定を行い、複数のシナリオ・選択肢を検討した上で、燃料デブリ・炉内構造物の取出工法の確定に向けた必要情報や判断基準の整理等を行う。また、関連する既存技術の調査や要素技術・装置に求められる仕様の整理等を行う。なお、本事業は本年 8 月から発足する「原子力損害賠償・廃炉等支援機構」における燃料デブリ取出しに向けた戦略検討等と連携して実施する。

○原子炉圧力容器内部調査技術の開発 (採択先：技術研究組合国際廃炉研究開発機構)

燃料デブリの取出しに先立って開発を行う圧力容器内の状況を把握するための調査技術については、平成 31 年度までに装置開発、実機適用性評価等を実施予定。

その中で、今年度事業では、関連するプロジェクトとも摺り合わせを行い、圧力容器に係る調査対象部位・調査項目の優先度や、これらの情報が必要な時期の整理等を行った上で、アクセスするための技術課題の抽出等を行う。また、最も早くアクセスできる可能性のある方法として、配管等の既存ルートを利用する調査装置の設計等を実施する。

○圧力容器／格納容器の健全性評価技術の開発 (採択先：技術研究組合国際廃炉研究開発機構)

燃料デブリ取出しまでの長期間において、圧力容器・格納容器等を安定維持するための構造健全性評価及び腐食抑制策については、平成 28 年度までに余寿命評価、腐食抑制システム開発、実機適用性評価等を実施予定。

その中で、今年度事業では、最新のプラント状態等を考慮し、余裕度の低い機器に対する耐震強度の詳細評価や、簡易評価手法の開発を通じて、冠水工法の成立性評価等を行う。また、実機適用性のある腐食抑制剤の検討や、構造材の腐食減肉量の予測高度化等を行う。

(2) 第七次公募 (2 件) 【公募期間：平成 26 年 6 月 13 日～6 月 27 日】

○原子炉格納容器漏えい箇所の補修・止水技術の開発 (採択先：技術研究組合国際廃炉研究開発機構)

○原子炉格納容器漏えい箇所の補修・止水技術の実規模試験

(採択先：技術研究組合国際廃炉研究開発機構、独立行政法人日本原子力研究開発機構)

冠水工法による燃料デブリ取出しに必要な格納容器の補修工法及び装置の技術開発については、平成 29 年度までに装置開発、モックアップ試験、実機適用性評価等を実施予定。

その中で、本事業では来年度にかけて、①サブレーションチャンパー脚部の補強装置や、ベント管・真空破壊ライン・壁面貫通部配管等の止水技術、接続配管のバウンダリ構築技術等の開発や、格納容器の水張りまでの作業プロセスを各号機ごとの整理を行う。さらに、②モックアップ試験として、サブレーションチャンパー脚部の補強装置の実規模試験や、実規模試験に用いる格納容器下部を模擬した試験体や必要な付帯設備等の設計・製作等を行う。

は原子炉格納容器漏えい箇所の補修・止水技術の開発事業、 は原子炉格納容器漏えい箇所の補修・止水技術の実規模試験で行う内容を指す。